

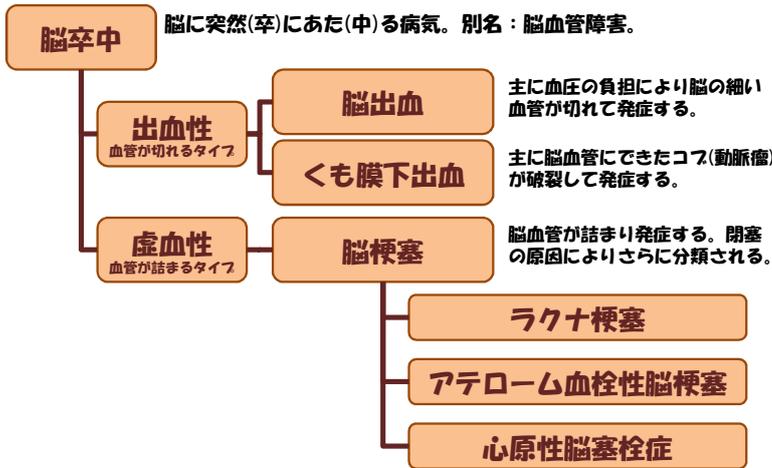


「あれ？」と思ったら迷わず救急車！

脳卒中治療について

脳卒中という言葉は、「卒然として邪風にあた(中)る」ということで、東洋医学的には、脳に急に悪い風が入り発症する病気を意味しているようです。あたるは中風ともいわれ、毒にあたる中毒と同じ用語と思われる。

脳卒中の分類



一方米国では、脳卒中を「Brain Attack (ブレイン・アタック)」と呼んで、救急疾患として取り組んでいます。日本では、ひと昔前までは脳卒中を発症した人を見ると、なるべく動かさず、寝かせておく方が良いとされていました。しかし早期に病院へ運び、診断・治療を開始する方が改善に結びつくという研究によって常識がくつがえり、さらに画像診断の進歩、新規の治療薬や治療法の開発により、今では日本でも、救急疾患として脳卒中が認知されるようになりました。

脳卒中と聞くと、手足が動かなくなる「麻痺」や、言葉が話せなくなる「失語症」を思い浮かべる人が多いと思います。では脳卒中は手足や口の病気でしょうか？答えは「いいえ」です。実は手足や口には病気はなく、そこに命令を送っている脳神経細胞が死んでしまう病気なのです。では脳卒中は脳神経細胞の病気でしょうか？これも答えは「いいえ」です。原因は脳神経細胞に酸素や栄養を送っている「血管の病気」と考えられ、そのため脳卒中は、別名脳血管障害とも呼ばれています。

では脳血管にどんな障害が起きるのでしょうか。ひと昔前は脳の細い血管が破けて、そこから血が噴き出してくる「脳出血」という病気が多くありました。近年は減塩とお薬の普及により、血圧を低く保てるようになったため、脳の血管も破けにくくなり脳出血は減ってきています。一方血管が詰まり、その先に酸素や栄養が充分に行き渡らないため、脳神経細胞が死んでしまう「脳梗塞」という病気があります。日本人の食の欧米化に伴い、コレステロールのような油分が血管の壁にこびりつき、血管がもろくなる動脈硬化が増えています。もろくなった血管の壁を修復しようとする過程で、血管内に「カサブタ」のようなものが過剰に形成され(アテローム)、それが血管を詰まらせる「アテローム血栓性脳梗塞」が増加しています。さらに高齢化に伴い、心房細動という不整脈により、よどんで固まった血が飛んできて脳血管を詰まらせてしまう心原性脳塞栓症も増加傾向です。

ACT FAST !!

Face	顔	片方の顔面が曲がる。 特に口元がさがる。
Arm	腕	片方の腕が上がらない。 手先がうまく使えない。ものを落とす。
Speech	言葉	ろれつが回らず話せない。 言葉が頭に浮かばない。理解できない。
Time	時間	突然発症！



このサイン脳卒中かも



急いで救急車を呼んで専門病院へ!!

脳梗塞は救急疾患！です。平成初期の頃は、診断のための画像もあやふやであり、決定的な治療法もなかったため、病院を早く受診しても思うような治療ができていませんでした。しかしその後、MRIの進歩で超急性期から脳梗塞の診断が可能となり、さらに平成17年10月、血管に詰まった血の塊をとく血栓溶解薬(t-PA)が使えるようになり、脳梗塞も救急疾患として治療する時代が幕を開けました。加えて最近では、カテーテルという直径が1.5~2.0mm、長さが約1.5mの細い管を血管の中に入れて血の塊を絡めとる、血栓回収療法ができるようになりました。

ただ、一度死んでしまった脳神経細胞を生き返らせることはまだ無理のようです。そのためには脳神経細胞が死んでしまう前に病院を受診することが最も重要です。急に症状がでて「あつたかな」と思ったら、すぐに救急車を呼んでください。後遺症を軽くできるかもしれません。

希望に満ちて 黎明郷に新たな職員が加わりました

辞令交付式

まだ雪が残る4月1日、令和7年度辞令交付式が執り行われました。高梨理事長より、新入職員26名、任用替職員13名に辞令が交付されました。

新入職員を代表し、誓いの言葉を述べたのは言語聴覚士の秋庭 勇平さん。「先輩職員の皆様に真摯に教えをいただき、常に黎明郷職員としての自覚を持ち、誠実に職務に従事することを誓います」と、力強く宣誓しました。その言葉を受け、参列者一同は財団職員としての職務を誠心誠意全うすることを改めて心に刻みました。

辞令交付式後には、新入職員研修会が2日間にわたり開催されました。財団の成り立ちや理念を学ぶとともに、脳卒中医療の現状、医療安全、感染対策など、医療現場で働く上で不可欠な知識を習得する貴重な機会となりました。



ようこそ黎明郷へ！笑顔あふれる歓迎会

新入職員歓迎観桜会

ようやく桜がほころび始めた4月18日、5年ぶりとなる新入職員歓迎観桜会が、市内のフォルトーナにて盛大に開催されました。弘前大学より富田教授を来賓にお迎えし、職員一同心待ちにしていた宴には、総勢223名が参加。久しぶりの賑わいに、会場は喜びに満ち溢れていました。

新入職員紹介では、フレッシュな笑顔が輝く新入職員たちが、それぞれの所属部門ごとにステージへ。代表者が今後の抱負を丁寧に述べると、その表情には社会人としての未来への期待が垣間見えました。



なぜ薬が手に入りにくい？

薬の出荷調整について

近年、物価の上昇に伴い、米の価格が4倍へ上昇するなどのニュースをみかけるようになりました。食品などは物価上昇に伴い、流通価格や販売価格も共に上昇しますが、薬の値段は国が定めた価格で2年間変わらず一定価格のため、食品などのように価格を高くすることができません。国が定めた価格より製薬コストが高くなれば、不採算品となり、出荷の調整や停止をせざるを得ない状況になります。それが「出荷調整」です。感染症が増加するなどの理由により需要が増加し、咳止め薬が入手困難になったり、外国から薬の原材料を輸入して製造する薬が多数あるため、日本と海外との関係性が製薬に影響を及ぼすことがあります。



一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

〒036-8104 青森県弘前市扇町1丁目2番地1

☎0172-28-8220

HP <https://reimeikyou.jp/hsc/>

関連施設

- ・介護老人保健施設つがる
- ・青森県高次脳機能障害支援拠点機関
- ・居宅介護支援事業所
- ・訪問リハビリテーション事業所